

週刊センターニュース No.221



第221号 臨時増刊号(2008年8月18日)
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター
URL: http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm

PC カンファレンス特集号

PC カンファレンス 2008 参加レポート～その2～

シンポジウム3 「ケータイとモバイルがもたらす新しい学習環境」

2008年8月6～8日、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスにおいて2008 PC Conferenceが開催された。本号では7日に行われたシンポジウム3「ケータイとモバイルがもたらす新しい学習環境」について報告する。

1. 「携帯を用いた社会調査」 加藤文俊 氏(慶應義塾大学)

社会学の授業に携帯電話の写真機能を使った授業実践が紹介された。その授業は次の4つの行程からなっている。(1)半日かけて街中から「気になったモノ・コト」(生活記録)を撮影する。(2)撮影した写真はその場で、授業用に立ち上げた専用のモノログに向かって全員がアップロードしていく。(3)KJ法などで写真を分類し、互いの視点や捉え方について議論する。(4)分類した写真と議論で得た気づき(400字)をポストカードとして提出する。これらの活動を通して、「自らの見え」と「みんなの見え」を学ぶのだそうだ。

この実践において、カメラ付き携帯電話の利点は以下の6つにまとめられる。

- 1) ほぼ全ての学生がカメラ付き携帯を持ち、使用のガイダンスも必要ない
- 2) 携帯電話を家に忘れてくる学生は極めてゼロに近い
- 3) 画像が撮れるため、メモや話よりも情報量が多い
- 4) 微妙なニュアンスをも採取可能である
- 5) 手軽にバシバシ撮影できる
- 6) カメラと違って、日常の風景がとれる(特に対人間の場合に効果を発揮する)

最後に加藤先生は「せっかくだから、作ったポストカードを商店街に置かせてもらおうと無料で配ったら、ポストカードを見てわざわざ連絡をくれる人がいた。狙ったわけではないが、この活動を通して地域とのつながりができたことも成果のひとつ」と付け加えた。

2. 「ポッドキャストによる学習展開」 坂本憲志 氏(アップルジャパン株式会社)

今の子供たちは、携帯電話を「ケータイ」と呼んでいる。デジカメは単に「カメラ」である。では、フィルム用カメラは呼ぶかという、「昔の」カメラなのだそうだ。このように小・中学生にとってICTは環境であり、テクノロジーの塊として受け取ってはいない。

坂本氏は、生まれたときから発達したICT機器に囲まれた彼ら「デジタル・ネイティブ」は「時間の制約を嫌う」、「場所の制約を嫌う」、「成果(評価)の非常に気にする」という3つの特徴を持っており、彼らにはインストラクション型ではなく、コンストラクション型の指導に対して親和性が高いと考える。すなわち、先生は教える人ではなく、「一緒になって考え、発見、探索、発信を助けてくれる」人であることを欲するのだという。

講演では、この視点から ICT を使った実践も紹介され、主体的学習への導きを強く訴える内容であった。

3. 「ケータイと学習」 武山政直 氏（慶應義塾大学）

代替現実ゲーム（ARG: Alternate Reality Gaming）を授業に応用した実践例が紹介された。ARGとは架空の物語が現実世界を通して行われるゲームである。例えば、プレイヤーの現実世界での行動によって物語が展開されたり、物語中の問題の手がかりが現実世界に置かれていたりするようなロールプレイ的要素を含むものである。

この実践では、講義中に武山先生の携帯電話が鳴り、福沢諭吉の幽霊から「最近の慶應の学生は協力して学ぼうという気持ちがない。今から問題を出すからみんなで協力して解くように」と伝えられるところから物語がスタートする。学生は構内の様々な場所に設置された QR コードを携帯電話で読み取り、そこで示される問題を解き、次の QR コードが隠された場所へと校内を調べ歩く。そして、授業用に設置された電子掲示板で定時報告を共有し、意見交換をし合いながら進めていくという内容である。

実践の結果としては、共同的学习よりも競争的学习に傾いてしまったとのことである。学生の自主性を引き出すには成功したが、一人でも解決できそうな条件設定であったために競争が起こり易かったのではないかと、武山先生は考察している。そこで次は一人では絶対に解決出来ない条件（地理・時間的な意味で）を設定することを検討しているとまとめられた。

本シンポジウムでは、児童・学生の主体的学習を促す工夫としてモバイルを効果的に利用した例が紹介された。手軽さを始め有用な特性をもつモバイルには、今後もさらなる可能性が求められていくであろう。
（文責：大学教育開発・支援センター - 末本 哲雄）

FD・ICT 講習会のご案内

第1回

日時：8月29日（金） 13:00～14:30

場所：総合メディア基盤センター プレゼンテーション室

主催：総合メディア基盤センター、FD・ICT 教育推進室

講師：人間社会研究域 古畑 徹教授

タイトル：「アカンサスポータルの授業活用例 - 大学・社会生活論の場合」

第2回

日時：9月19日（金） 13:00～14:30

場所：総合メディア基盤センター プレゼンテーション室

主催：総合メディア基盤センター、FD・ICT 教育推進室

講師：総合メディア基盤センター 松本豊司准教授

タイトル：「アカンサスポータルの授業活用例-1 歩進んだ PC 活用講座の場合-」

第3回

日時：9月26日（金） 13:00～14:30

場所：総合メディア基盤センター プレゼンテーション室

主催：総合メディア基盤センター、FD・ICT 教育推進室

講師：総合メディア基盤センター 佐藤正英准教授

タイトル：「アカンサスポータルの授業活用例-情報処理基礎の場合-」

【お問合せ・お申込先】 FD・ICT 教育推進室 森

電話：076-264-5817、メールアドレス：e-support@el.kanazawa-u.ac.jp